

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400058		
法人名	社会福祉法人中泊町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームしおさい		
所在地	青森県北津軽郡中泊町小泊朝間1番地25 小泊診療所2階		
自己評価作成日	平成22年11月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0292400058&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当ホームはとても立地条件、周辺の環境に恵まれていると思います。まずは、医療面においては、町直営の診療所の2階にホームがあり、通院における心身の負担が少なく、とても助かっております。
 ・防災関係においては、火災通報装置、スプリンクラーも設置されております。また、徒歩2分くらいのところに消防署があり、その向かいには、小学校のグラウンド、右隣の敷地は当法人経営の通所、訪問、支援ハウスの事業所があり、左隣には弘南バス小泊案内所、ホーム向かいの商店は運営推進委員の方がおり、緊急時、災害等において、協力が得られる環境にあると思っております。
 ・海と山に囲まれた地域であり、入居者の方には四季を感じて頂けるよう、旬の食材、地域探索など行い、五感への働きかけに力を入れ生き生きと生活して頂けるようにと工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームの1階は診療所になっており、医療面のサポートが容易に出来る環境にある。地域住民との関係も良好で、災害時の協力体制も構築されている。
 地域の催し物への参加も積極的で、地域の知人や友人、家族の面会も多く、地域に密着したホームである。
 自然豊かな環境にあり、旬の食材など季節を十分に楽しむことの出来る環境にあるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を「支えあう笑顔のある生活を目指して」を目標に、信頼関係を築き、おらかな心で接し安心して頂き、支えあいながら出来ることを増やし、いつも笑顔で過ごせるようにと機会あるごとに伝え、実践につなげております。	運営理念は職員全員で話し合い作成された。職員への伝達も積極的に行われており、理念の共有に向けて日々取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・開設から6ヶ月ですが、事業所が地域の一員となれるよう、商店、薬局等と交流を図っています。 ・日常的には、天気の良い日はホーム周辺を散歩し地域の方々と挨拶を交わし、町の祭りなどへも参加しております。	地域の催し物に参加するなど地域交流が積極的に行われている。また、日々の生活においても散歩の機会を持ち、挨拶を交わすなど地域との関係性を重視して取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の中学、高校からの職場体験ということで中学生3名、高校生1名、医療側からは研修医2名、医学生1名の受入を行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・入居者も参加し意見を述べられていました。家族代表、民生員、地域住民代表の方には、まだ、説明不足のように感じております。 ・意見等においては、ホーム会議において報告し、サービス向上へつなげるよう努めております。	2ヶ月に1回開催されており、行政職員・地域包括支援センターの参加が得られている。また、利用者・家族も参加され、会議では災害時の協力体制や地域の行事参加等について話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・退所における相談をさせて頂き意見を伺ったり、区分変更における説明をさせて頂いたりしております。	退居における相談やその他の相談など積極的に行われており、行政機関との連携強化に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員には、開設当初より身体拘束についての周知を図っており、研修も予定しております。 ・ホームが2階ということで、階段が3箇所(非常階段もいれ)ありますが、日中は鍵をかけずにあります。見当識障害のある方の行動は常に観察し、階段からの転落等防止に努めております。	身体拘束についてのマニュアルが整備されており、周知徹底がなされている。職員は日々の業務において、利用者個々の行動観察に努めており、徘徊者には寄り添うように支援がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修参加は数人ですが、虐待防止においては周知しております。研修参加も予定しております。 ・夫婦で入居されている方が2組おり、2組とも暴力的行為があり、原因についての把握に努め、見過ごすことがないようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が学べるように研修を考えております。 ・入居者におきましては、必要性を見極め対応していきたいと思っています。 ・身寄りの無い方、福祉事務所との連携、当法人事務局との連携も図っています。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時は、運営規定、重要事項説明書、契約書等において説明させて頂いております。また、随時、説明は行っています。 ・自主退所の方には、ご本人、ご家族へ医療の必要性を伝える会議を開かせてもらいました。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様には、日常会話の中から意見を伺うようにしております。ご家族様からは、少なくとも月1回は来所して下さるので、ご本人様の状態報告をし、意見を伺うようにしております。 ・ホーム会議において、又は随時職員に周知反映させて頂いております。 	運営推進会議には入居者及び家族も参加されており、意見をもとに話し合いが行われ、業務に反映させている。また、面会時には、積極的に声を掛けて意見が得られるように取り組み、小さいことでも職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者が意見を聞き、施設長、事務局への報告をし改善すべきことはさせて頂いております。 ・職員もグループホーム経験者少なく、遠慮がちなどころも見られます、今後はもっと活発な意見を言えるようになると思います。 	職員会議が毎月行われており、入居者の状況やホームの行事などの話し合いが行われている。会議では管理者が主となり進められ、職員の意識を高められるように工夫されている。	開設されて間もないため、職員も経験者が少ないことから、今後一層、職員育成に力を入れ、全体的なレベルアップにより専門性の高い活発な意見交換が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は職場環境、条件等において恵まれていると話しております。 ・改善の必要や要望等においては、管理者が上司や事務局への報告、要望を伝えるように努めております。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・開設当初より、サービスの質の向上のためにも自己研磨に励むようにと、研修への必要性を話されており、職員も研修参加には意欲を見せております。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にあるGH事業所(9箇所)との勉強会への参加を行っています。 ・年1回のGH大会への参加も予定しております。 ・全職員の参加を可能にするための配慮をし、研修内容をファイルに綴り回覧、会議において検討させて頂いております。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所申し込みにより、ご本人、ご家族との初回面談を行っております。自宅への訪問、来所等にて傾聴しつつ、コミュニケーションを取らせていただいております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族さまにおきましても、ご本人の前ではお話できないようなことは、来所や電話等にて傾聴するようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認。 ・必要と思われた時は、本人やご家族に説明をし各関係機関との連携を行いサービスにつなげるようにします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者様は、当初「世話になっているから」と遠慮なさっている様子が伺えました。 ・職員には理念を忘れず、人生の先輩である皆様から教えてもらいたいことをさりげなく伝えてもらい、最近は会話も弾み、教えてもらうことが多くなりました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族とゆっくり話す時間は、持てずにはいますが管理者が面会時に状況を伝え、関係が途切れないよう支援しております。新しい情報などは、随時申し送り、会議等にて周知を図っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・信仰心の厚い方がおられ、娘さんが月1回は参拝に連れて行かれ継続しております。 ・デイを利用されていた方は、知人の利用日にデイへ遊びにいかれます。面会、電話などで交流を継続していただいております。	家族の協力において近くの温泉に出掛けたり、馴染みの美容院に通うなど、これまでの関係性を継続できるように支援している。また、デイサービス利用者との交流も行われており、友人・知人との触れ合いが多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者一人一人の性格、周辺症状の把握をし、関係が気まずくならないようにさりげなく職員が中に入り支援しております。 ・毎日の食事、おやつ、レクの時間に入居者が共有できるような話題づくりにも配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自主退所となった方が1名おりました。アルコール依存症の疑いがあり医療面の支援が必要と思い、退所後もご家族様への協力を呼びかけ、在宅関係者とも支援した例がありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で、言葉、表情などからその真意を検討し、かなえられることは叶うようにしています。意思疎通が困難な場合は家族や関係者から情報を得ながら検討しております。	管理者は日々の業務において、「入居者の話を良く聞くように」との指導を徹底し、職員は意識しながら意見の引き出しに取り組んでいる。また、入居者の意見を尊重し、職員で話し合いを行い業務に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・初回面談において、ご本人、ご家族、担当ケアマネ等からの情報により把握しますが不足と思っております。入居により、新たな状況が見えてきますので、そのつど、新たな気持ちで見守るようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・初回面談において、ご本人、ご家族、担当ケアマネ等からの情報により把握しますが不足と思っております。入居により、新たな状況が見えてきますので、そのつど、新たな気持ちで見守るようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日頃のかかわりの中で把握できたこと、ご本人には会議にも出席いただき意向を伺い作成しておりますが職員も始めてのことで、計画作成者も会議運びが不十分なところもありますが理解してもらえるように努めております。	個々の入居者に合わせた評価期間を設定して、見直しが行われている。会議には職員及び入居者本人も参加されており、それぞれの意見をもとに話し合いが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別のファイルを用意し健康管理から日々の暮らしの状況を記録しております。 ・職員には、入居者の心理面、状態等について自分なりに感じたままを記載し提出してもらい、介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・定期受診以外の受診には随時対応させて頂いております。予定以外の外出支援、来所においても臨機応変にて行っております。 ・家族の宿泊等にも対応できるようにしたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・同法人で運営している、デイサービス(旧小泊温泉)の入浴を楽しんだり、デイとの合同の夕涼み会にも参加し地域の夏祭りや、町民祭への参加もしました。今後も地域資源の活用に励みたいと思っています。理美容においては、訪問して下さいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っております。 ・緊急時等は家族への連絡にて同行していただいております。 ・現在、訪問診療利用はありません。	入居前のかかりつけ医の受診を継続されている。また、ホームの1階は診療所になっているため、いつでも受診できる環境にあり、関係性も良好である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・主に看護師が受診支援行っており、対応できないときは介護職員への申し送りをし支援行っています。また、受診先の看護師へ相談、助言、指導を頂いています。 ・受診状況については、申し送り簿、通院記録簿、ケース記録への記載行い全員が周知できるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・肝性脳症による意識障害で入退院を繰り返した方がおります。入院先と退院後のかかりつけ医との連携を図り、支援致しております。 ・入院先の地域連携室へも相談させて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・当ホームにおいては、重度化や終末期においてこれから検討すべき点があります。 ・契約時においては、家族に説明しております。	ホームで対応できること、できないことを、契約時に十分な説明が行われている。 医療処置が多くなりホームでの対応ができなくなった場合には、他の施設等を紹介するなど本人・家族が不安にならないように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・H22年9月消防署主催の応急手当講習会に全介護職員が出席し研修することができました。これからも、実践力を身につけるためホーム、外部での勉強会に参加していきます。 ・緊急時の手順、連絡等は常に話しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の避難訓練においては、消防署の協力を得ながら実施いたしました。2階にあるホームなので、階段、エレベーターの使い方も検討しています。また、避難場所の確認、地域の協力についても運営推進会議、ホーム会議等において話しております。	消防署の立会いのもと、定期的に防災訓練が行われている。火災だけではなく地震や津波を想定した訓練も行われている。また、運営推進会議にて災害時の対応策も話し合いが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・援助が必要なときも、相手の気持ちを考え、さりげない、やさしい口調でケアすることを心がけております。 ・入居者の情報連携についても守秘義務に配慮しております。 	職員は日々の生活の中で、言葉遣いや音、無駄話などに注意して業務に取り組んでいる。また、個人情報使用同意書の説明及び納得が得られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の話題(飲食関係)から、好きなものを聞き出し、自己決定できるようにしています。 ・外出先なども、押し付けず情報を伝え、行きたい方は外出できるようにしています。 ・日頃からの、表情観察にて把握しています。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の流れはありますが、体調の把握につとめ、レク参加等無理の無いように過ごせるようにしています。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には入居者が決めております。着方が間違っているときは、さりげなく着替えが出来るよう促します。お化粧したい方は行っています。 ・外出時も見守り、声掛けにて身だしなみの気遣いをしています。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・準備、後片付けが出来方方には、職員と一緒にしています。地域の食材で話題を盛り上げ、楽しんで頂けるように努めています。 ・昔なつかしい食、つくり方なども話題に出来るので力を入れております。 	食事ではその時の旬の食材に応じて、臨機応変にメニューを組み立てている。食事の際には会話を大切にして、得られた情報の中から入居者の昔ながらの料理を提供できるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取量、水分量などは記録しております。 ・献立は栄養士はおりませんが、一日のカロリーに配慮し作成しています。体調の変化により、変えることもあります。高たんぱく質を控える必要がある方、刻み、トロミ食も提供しております。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後は必ず声掛けをし洗面所にて行ってまいります。移動介助が必要な方も車椅子にて介助し歯磨きを行っています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表により排泄パターンを把握し、夜間の不穏のある入居者には、安心してトイレでの排泄が出来るよう声がけを行っています。 ・状態変化に変動のある方には、随時、状態に合わせた対応させて頂いております。	排泄チェックを行い、排泄パターンの把握に努め、個々に合わせたトイレ誘導を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェック表にて確認しながら、下剤投与、又は、浣腸の必要がある方は看護師が浣腸しています。飲食の工夫、毎朝・夕の運動にも配慮しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	・基本的に、曜日は決まっておりますが同法人の通所介護の入浴も出来ますので随時利用しております。今後、もっと楽しめるようにしたいと思っています。	入浴の曜日は決められているが、入居者の希望によりいつでも入浴が出来る体制になっている。場合によっては、デイサービスの設備を利用できる体制もとられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の活動を促し、生活のリズムを整えるためにも夕方歩行運動等取り入れています。 ・夜になると見当式障害が強くなる方には、傾聴にて心穏やかになればと対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の説明書は個別ケース記録に入れており、いつでも確認出来るようにしています。また、変更があったときなどは、必ず看護師が周知できるように申し送りを行っています。臨時薬、外用薬など介護員が目につくところに貼っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人一人の得意なところを把握することに努めています。出来るところがあれば、無理強いないように、さりげなく引き出せるよう配慮しております。外出や地域行事参加なども相談しながら意見を出すことをお願いしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・車椅子の方も、わらび採り、イチゴ狩り、サクランボ狩りにも参加されました。春先は気候よく、外出を多くし弁当からラーメンまで楽しむことができました。地域の海、山をもっと活用したいと思っています。 ・近くのお店には職員が一緒に行っています。	近隣の散歩を積極的に行うとともに、入居者の希望により歩いて買い物に出掛けたりと、日常的に取り組んでいる。また、季節に応じて、車で外出するなど、野外での活動計画も立て、実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・小額でもお金を持っていることの安心感を感じ取ることがあります。小遣いは自己管理していただいております。ほしいものは、職員に買い物を頼んで支払いをされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠方に住む娘さんからの電話、手紙等のやり取りがありますが、今後、ホーム便り、絵手紙など取り組みたいと考えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感をだせるように、ホールの飾り付けに工夫しておりますが、まだアイデア不足と思っています。季節を感じて頂けたらと、入居者と一緒に作品作りも行っています。 ・ホームが2階にあるため不便なところもあります。が花壇に行く祭には、運動になっています。	壁には行事の写真や入居者が作成した装飾品が飾られている。共用空間にはソファが設置され、廊下にも椅子が設置されており、思い思いに過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールには常に皆さんが居て下さり会話が弾んでいるときはこちらも嬉しくなっています。 ・廊下、居室に椅子を置いてあり、気のあった同士で会話されています。 ・一人になりたい時は居室へ行き休んでいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には開設時、ベットと収納タンス同じものが取り付けられており、自分の物としては馴染めない方もありますが馴染むことが出来る方は、使い慣れたものを置かれています。元、入院室であったこともあり、病院のイメージが強いようです。	居室にはこれまで使用してきた持込み品が多く、花を飾ったり、位牌や写真なども置かれており個性豊かな居室となっている。持ち込み品の制限はない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレがドアでないことで、「ノック」が出来ず入居者同士気まずくなったことがあり、鈴をつけるなど工夫をしていますが、まだ気づかない点が多いと思います。 ・出来ることが多くなるよう配慮していきたいと思っています。		